

学習理論 [1]

Question

次の文章が説明している学習理論・教育方法として、最も適当なものを選びなさい。

フィリップスが考案したグループ学習と討議法を組み合わせた学習方法。この方法の代表的なものは6人のグループで6分間討議されることから6-6討議とも呼ばれる。学習者全員の積極的な参加が期待できる。

- ① プログラム学習
- ② バズ学習
- ③ 発見学習
- ④ 有意味受容学習
- ⑤ 問題解決学習

(2015年度試験：千葉県・千葉市)



バズ学習は要注意の学習理論だ。現行学習指導要領の総則においては、グループ別指導や繰り返し指導、個別指導など多様な学習方法が提唱されている。このことを受けて、グループ学習の代表例ともいべきバズ学習に関する問題が出題されている。バズ学習の特徴をぜひおさえておきたい。

解答 ②

Point

1 教育史と関連する学習理論をおさえよう

問題解決学習や発見学習、ドルトンプランといった学習理論は教育史と関連している。これらについて、学習理論の名称、提唱者、学習理論の特徴をセットにして覚えておきたい。

2 教育心理と関連する学習理論をおさえよう

プログラム学習、完全習得学習といった学習理論は教育心理と関連している。これらについては、学習理論の名称、提唱者、学習理論の特徴をセットにしておさえよう。

3 近年注目されるようになった学習理論をおさえよう

ここ数年の採用試験で、グループエンカウンターという学習理論に関する問題がみられるようになってきた。聞き慣れない学習理論だけに、その特徴を必ずおさえよう。

Practice

スキナーによって考案されたプログラム学習の原理について述べたものとして適当ではないものを、次の①～⑤から1つ選びなさい。

- ① 積極的反応の原理とは、学習者自身が課題に対して興味をもち、積極的に反応することが、学習が成立する上で大切であることを意味している。
- ② 自己ペースの原理とは、学習者の個人差に応じたペースで学習することは、外部からの強制による学習ではなく、自己の能力に見合った最適のペースで効果的な学習をすすめることができることを意味している。
- ③ ステップアップの原理とは、学習過程を連続過程と考え、学習内容をできるだけ細かく分割することをいう。
- ④ 学習者検証の原理とは、プログラムの良否は、学習者の学習結果によって検証されることを意味している。学習者が目標に到達しない場合には、プログラムに問題があると考え、その改善が行われる。
- ⑤ 即時確認の原理とは、反応の正誤を学習者にすみやかに知らせることは、学習の効果を高めることに役立つことを意味している。

解答 ③